

平成28年7月22日、文部科学省の「道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」は「特別の教科 道德」の指導方法・評価等について報告をまとめました。今回は、同報告の中の「5 道德科における評価の在り方」のポイントを紹介します。

- 今回の学習指導要領の改正により、道德科における評価として「児童生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子」を把握することが明示された……。 (一部抜粋)

☆ ポイント



今までは、道德の時間の評価は、指導要録上「行動の記録」の一つでした。しかし、今回の学習指導要領の改正にともなって、「学習状況」や「成長の様子」も把握していくことになりました。

- 児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を設定……することが求められる……
- ……内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価をすること
- ……他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うこと……
- ……学習活動において……多面的・多角的な見方へ発展しているか、道德的価値の理解を自分自身の関わりの中で深めているか…… (一部抜粋)

☆ ポイント

道德科の学習活動を踏まえた上で、授業中の児童の様子を観察や、作文、ノートなどの記述、質問紙などを通して、「多面的・多角的な見方へ発展しているか」学習の内容を「自分自身との関わりの中で深めているか」といった点に注目することが求められています。

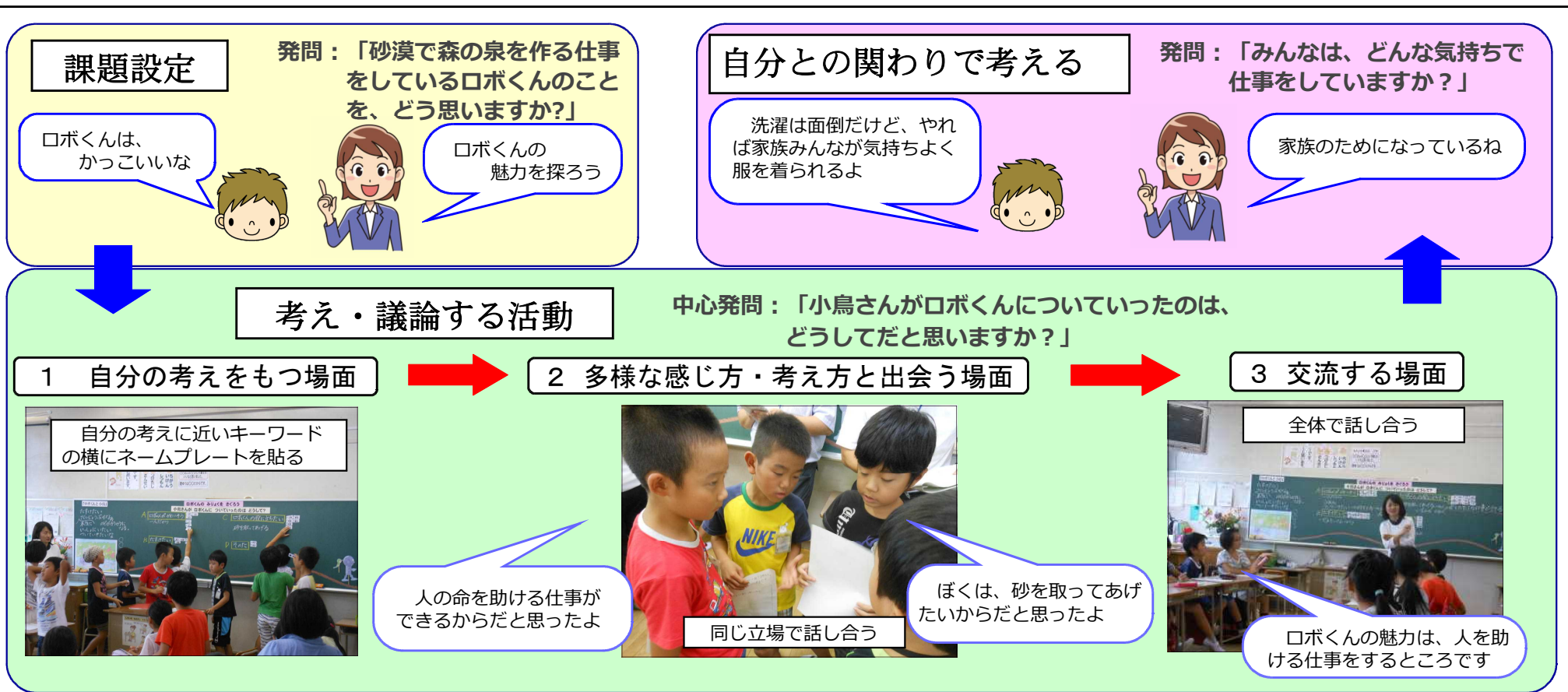


考え、議論する
道德の授業を目指して!

=テーマ部会 授業研究 =

9月21日(水)に、南区豊田小学校の3年2組の井町知美先生の学級で、問題解決的な学習を取り入れた授業を行いました。資料は、明るい心3年(県教振)「ロボくんと小鳥」です。授業では「ロボくんの魅力を探ろう」という課題を設定し、緑の森を去って砂漠に向かったロボくんの後を、小鳥さんがついて行った理由について考え、議論し、本時のねらいに迫りました。授業後の研究協議会では、考え、議論する場での手だての効果や、今後の課題について話し合われました。詳しい内容は、研究発表会で発表します。楽しみにしてご参加ください。

「テーマ部会」では、問題解決的な学習を取り入れた「考え、議論する道德の授業」をつくる研究をしています。



道德Q&A ~実際にお尋ねがあった質問から~

Q. 資料の探し方や選び方はどのようにしたらよいでしょうか。

A. 「明るい心」「明るい人生」や「私たちの道德」以外にも、多くの道德の副読本が出版されています。同じ内容項目でも、異なる資料を取り扱っていますので、学級の実態に合ったものを探してみてくださいはいかがでしょうか。また、授業のねらいをよく考えた上で、新聞の記事や絵本などを扱ってみるのも面白いですよ。

Q. 授業の終末ではどのような話をするとういでしょうか。

A. 学習した内容と、子どもたちとの関わりに気付かせることが大切です。例えば、良い行いをした主人公と同じ面が、子どもたちにもあることを、具体的な場面を取り上げて紹介し、励ましてはいかがでしょうか。また、話し合いの内容を補足する教師の体験談なども、子どもの新たな気付きを生み出します。

Q. 子どもたちが、積極的に発言するようにするにはどうしたらよいでしょうか。

A. 話し合いの方法を工夫することが大切です。例えば、自分の考えに近い意見の板書にネームプレートを貼ったり、円グラフなどで気持ちの葛藤を表したりして、発言が苦手な子も自分の意見を表せるよう工夫してみても、いかがでしょうか。全員が参加したくなる話し合いにしたいですね。